

ピアサポートワーカー 2027年度研修生募集

Training for peer support worker



東京大学では、2019年度よりピアサポートワーカーの育成を始めました。ピアサポートの理念に根ざした対話中心の講義や、東大病院での実習、またその他様々な学習資源及び環境を用意しています。

研修生募集説明会：9/13(日) 15時～16時

- 方法：東京大学内（本郷キャンパス）にて対面開催
- 申込：<https://forms.gle/GnTX5uNJBzNZCBPV9>
(または本チラシ下部のQRコードから入力下さい)
- 申込メチ：9/8(火) 17時まで
- ※ 実施数日前に、メールにて会場等のご案内をお送り致します。
- ※ 本説明会に参加が叶わずとも、本研修への応募は可能です。

出願締切：2026年11/13(金) 必着

提出方法は
郵送のみ

- 出願書類 (1)履歴書(書式自由)、(2)志願理由(800字程度) (3)結果通知用封筒
※応募に際しては、必ず本研修の募集要項をご確認願います。
- 選考方法 1次選考：書類審査により選考
2次選考：書類選考合格者には、日程調整の上、面接(対面またはZoom)
- 出願先 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東大病院 精神神経科 CRC A棟1F
TICPOC事務局 ピアサポートワーカー養成コース(D-1)宛
- 出願期間 2026年9月14日(月)～11月14日(金) 必着
- 連絡・問合せ先
メール：utokyo.coproduction.training@gmail.com
電話：03-5800-9263にお電話いただき、「内線33617につないでください」と電話口でお伝えください。
※出来る限りメールでのお問い合わせへご協力をお願い致します。上記の電話が繋がらない場合には、半日あけてお掛け直してください。病院の代表電話にかけるとはご遠慮ください。

※13時より別途シンポジウムも企画しています



本研修サイト



申込フォーム



本研修について
のよくある質問

TICPOC

検索

※募集要項やシンポジウムの詳細は本研修のWEBサイトからご確認ください

以下3つをコアとなる素養と位置づけ、患者の価値にもとづき医療における多職種協働や医療と地域をつなぐ支援のできる人材を育成を目指します。

1. Trauma-informed care (トラウマが存在する可能性を熟知して支援にあたること)
2. Co-production (当事者と専門職で共同創造していくこと)
3. Organizational change (これらの理念を実践できるような組織を変革すること)

【本研修の目指すところ】

本研修は、ピアサポートワーカーとして働く上で基盤となるリカバリーやピアサポートの哲学を軸に据えた学びの場です。学ぶプロセスを通して自身の考え方や行動にこれらの哲学を取りこんでいくことを目指しています。

■募集人員…若干名(最大4名)

■受講期間…2027年4月～2028年3月上旬(第1回目講義は4月中旬頃を予定しています)

■受講費用…無料(※但し、研修機関の特性上、各種ワクチン接種や事前の健康診断をお願いしています。またこれらにかかる費用は自己負担となります。予めご了承ください。)

■求める人物像

- ✓約1年間を通して本研修に参加できる方で、主体的に自己学習に取り組む意欲のある方。
- ✓精神科医療または障害福祉サービスの中で、精神的困難の経験を活かして既に働いている方。または、これから働くことを目指す方。
- ✓ピアサポート活動やセルフヘルプグループ等に参加したことのある方。または関心をもって主体的に取り組む意欲のある方。

■応募資格(以下2点を満たす方)

- ①精神的困難の経験を有し、精神保健医療福祉領域でピアサポートワーカーを目指す方。
- ②高等学校を卒業した方、または高校卒業者と同等以上の学力を有すると認められた18歳以上の方。

■研修内容

- ✓講義+実習=120時間程度(本研修履修証明書交付に必要な最低研修時間数です)
- ✓実習は秋頃を予定。実習期間中は平日週2日～3日程度登院して頂く予定です。(日程応相談)
- ✓上記120時間以外にレポート作成や講座振返り等の自己学習、定期的な個別振返り等の推奨有り。

■研修内容についてよくお問合せ頂くこと

✓以下のQRコードから質問および回答一覧をご覧いただけます。

■講義カリキュラム(※以下は一例です。次年度カリキュラムは現在検討中)

- ✓リカバリーとは ✓ピアサポートとは ✓精神障害当事者の歴史 ✓ピアサポートの源流
- ✓働く上での職業倫理 ✓守秘義務 ✓自己開示、自らの経験のわかちあい
- ✓障害当事者の権利について考える ✓リカバリー志向の言葉遣い ✓共同創造 …etc.